

## 新 入 職 員 紹 介



看護師 機部 佐保奈

2月から入職しました機部と申します。

私は8年前に祖父を自宅で看取るという経験をしました。いっぽスタッフに支えられ乗り越えることができ、患者さんと家族に寄り添う医療者の姿に憧れました。また、自分自身も病気の経験をしたことから患者さんの気持ち、家族の気持ちに寄り添える仕事がしたいと強く思うようになり、社会人から看護師を志しました。今、憧れを抱いていた場所で働けることが嬉しいです。

未熟ではありますが、自分が大切な家族を支えていただけたように、今度は支える側として精一杯頑張ろうと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

## いっぽの一步

当診療所の2021年を振り返りました。制約のあるご時世でもスタッフは元気！工夫し思い出が沢山の1年になりました。

3月退職スタッフ  
送別セレモニー



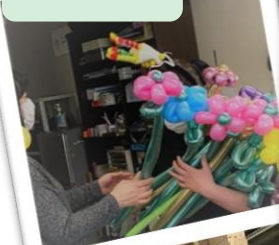
30周年お祝い会



毎月の勉強会



新入職員  
歓迎セレモニー



元気の源  
いっぽランチ



元気印いっぽスタッフ



毎日の訪問業務



医療法人一步会

## 緩和ケア診療所・いっぽ

2022年  
7号

新型コロナウイルス感染症が広がりはじめてから2年が過ぎました。この間社会にも医療にも大きな影響がありましたが、入院中、また施設入所中の方の面会制限も大きな事柄の一つと言えます。

当院の患者さんでも在宅療養を選択した理由の一つとして、入院していると十分に面会ができないことを挙げる方が多くおられます。この春私自身祖父を亡くし、家族としてそのような経験をしました。

祖父は数年前に転倒を機に施設に入所しました。今年になりイレウスで入院し、症状が改善後、食事が開始されましたが嚥下機能が著しく低下し飲食ができなくなり、主治医から予後数週間と言われました。元々入所していた施設でも看取りはしていただけますが、リモート面会しかできないことから、前橋の「ホスピスと家」で過ごすことを決めました。ホスピスと家では感染対策を徹底しながら、看取りが近い方には最大限家族の面会ができるよう配慮を下さっています。

退院直後はぼんやりしていましたが、家族とふれあい丁寧なケアを受けるうちに活気が戻り、家族の面会に手をたたいて喜ぶ姿を見ることができました。亡くなる2週間前には「俺のことは心配するな。もう永くはないだろうが精一杯生きる。」と紙に書いてくれました。そのような力が残っていたこと、そのような思いを家族に伝えてくれたことに深く感動しました。十分に面会をして触れ合うことができ、亡くなった後家族の悲嘆は想像していたよりも大きなものとはなりません。

亡くなる前の時間と言うのは本人にも家族にもとても大切な時間です。

病院でも施設でも命を守るために懸命の診療、対応を行われており面会への対応は難しいところとは思いますが、少しでも患者さんご家族の心が救われることを願っています。

在宅療養もその一つの選択肢としてより多くの方に利用していただきたいと思います。

今回会報7月号では、多くの医療処置がありながら病院と在宅チームとが連携を重ね在宅療養につなぐことができた患者様をご紹介します。

日頃からお世話になっている病院、介護関係の方に感謝いたします。

今後ともよろしくお願いいたします。

院長 竹田 果南





お看取り後の娘さんのご挨拶「私、楽しかったんです」。その言葉を紡いだのは、病院、介護、在宅医療のスタッフの連携があったからできたこと。皆で想いを支えたケースを振り返りました。

# 「楽しかった！」をありがとう

多職種連携で叶えられた家族の時間

## ケース紹介

80代男性 口腔癌末期の患者Aさん ご家族は妻、娘三人

口腔内の癌で数年来病院でフォローされていたAさん。進行し経口摂取ができなくなり気管切開、ポート造設、高カロリー輸液を導入し、退院を希望され当院へ紹介されました。退院に向けた話し合いの日に高熱が出てしまい、その後ポートを抜去、胃瘻を造設し経管栄養を導入してから退院されました。経管栄養の投与、吸引などご家族の担う処置がたくさんありましたが、一生懸命明るく看護してくださいました。結果的に退院してからご自宅で過ごせたのは10日間でしたが、とても濃密な日々でした。

在宅療養日数：10日間  
医師訪問：3回  
看護師訪問：8回  
(緊急訪問2回)  
電話相談：12回

## 通院～入退院の繰り返し

### 病院医師

「数年にわたり病院診療方針決定場面時は、意思表示をはっきりさせる患者さん。」

### Aさん

「家族に負担をかけるのが心配。転院が良い。」

## 在宅療養への相談

### 家族

「転院を検討したけど、自宅で看たい。」

### ソーシャルワーカー

『いっぽで受け入れは可能ですか？』

いっぽ連携室 OK

## 退院の決意

### 家族

「親孝行だと思うので家で看ます。」

### Aさん

「家に帰れるの？じゃあ、明日帰れる？」

### 家族

「みんなで家で過ごしたいね。」

## 当院相談 家族面談

## 経口困難 ポート造設 気管切開

## 再発 化学療法困難

## 延期後、気持ちの揺れ

Aさん「帰るのは楽しみだけど・・・。」

### 家族

「弱った姿を見せたくないのかも。」

### ソーシャルワーカー

「できることは自分でやる事を目標にしませんか。」

改めて退院を決意

## 胃ろう 造設

## 方針再検討 退院延期

## 発熱

## 退院前 カンファレンス

参加者 ●病院医師、看護師、相談員  
●いっぽ医師、看護師  
●ケアマネ ●本人、家族

## 家族指導

ポート管理 → 胃ろう管理、吸引

## 病棟担当看護師

新たに習得する処置。暗い気持ちにならないように一緒に頑張る気持ちで指導。

### 家族

「もう少し指導を受けて自信をつけたい。」

## 看取りが近づいて

訪問看護師 家族のできる事を提案

大好きだったお酒を味わってもらいたい

家族「やったねお父さん！もう1杯いく？」

大好きだった音楽を、いつもの会話を

家族「今日は裕次郎祭りだったんです。」

## 昏睡

## 家族

「やりきりました！本当に良かった。」

## 旅立ち

## 状態 低下

訪問看護師 体調と意向に合わせたケアを家族と一緒にやる

Aさん「気持ちいいな～。」

家族「お父さん良かったね。こんな医療があるなんて。」

## 訪問診療・訪問看護・介護サービス開始

ケアマネージャー 介護サービス計画作成 目標『家族と普通の日常を送りたい』

Aさん 訪問看護師に向かってグーサイン

家族「退院できて良かった。」

## 娘さんから いっぽへの お手紙

いっぽの皆様へ

父が退院、帰宅してから10日間、いっぽスタッフは私たちの“お守り”的な存在でした。

「何があっても、いっぽさんがいてくれるから大丈夫」といつも思える安定感でした。

訪問初日、いっぽの看護師さんが「あなたはたくましい(頼もしい)。だけど、抱え込まないで。そういう時に私たちがいるんです。利用できるサービスはどんどん利用すべきですよ。」という旨のお話をしてくださり、その後ケアマネージャーさんが必要なサービスを紹介してくださいました。あのようにハッキリ、きちんとお願いしただけで、私もあの時からはずっと「頼ってもらいたい」と思えるようになりました。

いっぽスタッフ皆さんの身近で見るテキパキしたお仕事ぶり、細やかな心配りや、迅速な対応には、何度も救われました。もう1つ救われた大切なもの、それは皆様の“明るさ”です。とかく暗くがちな闘病生活や看取りだと思いましたが、皆様の明るさで私たちが笑顔になり、時には看護師さん方と大声を出して笑ったのも覚えています。家の中も明るくなって、入院中はあまり見ることのなかった父の笑顔を見ることができました。懐かしい昔の写真を見ては笑い。入院中のおもしろエピソードを思い出して笑い。大好きなお酒の話をしては笑っていました。普通の日常の一コマが戻ってきました。本当に良い時間を過ごせました。

父が息をひきとった際、母に「お母さん、お父さんを家で看取れてよかったでしょ？」と尋ねると、「よかった」と即答していました。笑顔のある日々の中で父を送れてよかった、施設に入っていたら、こんなふうには送れなかった、と話していました。私も本当に悔いが全くありません。私の想いを受け入れてくれた父にも感謝です。最後の親孝行をさせてくれました。

こんな言い方も何なんですけど・・・ 私すごく楽しかったんです。父も不平不満1つなく、良い表情をしていました。家族みんな同じ想いでした。父と家族と過ごした日々はとてもいい時間でした。

Aさんご家族を支えてくださった病院医師、看護師、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、当院担当看護師にそれぞれ想いを伺い編集しました。いただいた原稿の全文をホームページでご紹介しています。



リンク先QR

